

旧街道&旧小路

まち歩きマップ



柳川市内路線バス時刻表

福岡県柳川市



◆ 旧隠居小路・浄華寺(旭町)
小路名はこの通りにある浄華寺が、もともと西方寺五代慶順の隠居地であったことに由来する。当時、主に足輕が住んだ町。藩政時代の町並みが偲ばれる通りの西端に柳川名物の「餡がた」の本舗がある。



◆ 三忠苑と安東省菴の墓
浄華寺の境内に、柳川藩藩士の祖・安東省菴の墓と、省菴の名著「三忠臣伝」にちなんだ庭園「三忠苑」がある。苑内の三大岩石は永戸光隆、前の大橋・米澤水、省菴を、小石敷きで東シナ海を現したものである。



◆ 外曲輪土居跡
外曲輪土居は柳川城の防衛のため、周囲に築いた土塁のことで、柳川を支配した田中氏、立花氏によって築かれ、強化されてきた。この土居跡は現在残っている唯一の外曲輪である。



◆ 北長柄橋と旧北長柄小路(北長柄町)
長柄(楡)組の組屋敷があったのが小路名の由来。南長柄町に続く通りとずれているのも当時の町づくりの特徴。近く「あめんぼセンター」(図書館、水の資料館)がある。



◆ 瀬高御門跡(新町藤吉交差点)
みやま市瀬高町へと通じる門というのが名前の由来だが、後に南の現在地へ移された。旧三池街道と旧柳川瀬高道の起点で、柳川の東の守りであった。当時の門は現在瀬高町下庄にある引接寺に移設されている。



◆ 旧宮永小路・米多比隅(宮永町)
柳川城をぐるりと囲む外堀の東南角、杉森高校の南側にある二つの小山は外堀跡に築かれた土居の跡で、米多比隅の屋敷がある隅という意味。堀の対岸からは静かな水辺の景色が開ける。

寺町界隈のまち歩きは、時間をかけるほど楽しみが深まる。



- ◆ 旧奥州小路・福蔵寺(奥州町)
福蔵寺は立花家の菩提寺(現福島県倉町)を住まわせたため奥州小路と呼ばれた。山守風門の岡脇で、阿形(右)と畔影(左)の仁王像がにらみを利かせている。どこかユーモラスなのがいい。
◆ 妙経寺・足達八郎墓(蟹町)
妙経寺境内にはその武勇を諸国に知られた居合と劍術の達人、電撃後刀流・足達八郎の墓がある。
◆ 長命寺山門(出来町)
山守風門の岡脇で、阿形(右)と畔影(左)の仁王像がにらみを利かせている。どこかユーモラスなのがいい。
◆ 旧袋小路の武家屋敷渡辺家(袋町)
城内の大通り旧本小路から東に一本の道が入る。堀に囲まれた当時は文字どおり袋小路。今も残る武家屋敷や延々と続く生垣が武家地の端正な小路の空気を伝える。国学者西原貞樹が出した西原家もある。



水郷柳川 旧街道&旧小路 まち歩き

◆ 城内地区・沖端白秋生家巡りコース
高門橋から西へ日本の道百選・山王橋・柳城公園・日吉神社・田中吉政公銅像・白秋歌碑・弥兵衛門前前から北へ藤平門橋・白秋道路を南へ藤村作顯影碑・海老名正顯影碑・十時邸・城西橋前・檀一雄文学碑・鬼童橋・旧戸島家住宅・稲荷町裏路地・二宮神社・水産橋・沖端漁港・三明橋・矢留町裏路地・白秋公園・白秋記念館・白秋生家

◆ 城東地区町人まち・城内巡りコース
辻町四角・京町通り・細工町・寺巡り・東魚屋町・小道具町・北長柄町・北長柄橋・南長柄町・出来町・長命寺・並倉(鶴味噌)・壇平橋・本町・高門橋から東へ日本の道百選・袋町武家屋敷(渡辺家)・あめんぼ公園から東へ城塞水門・水門橋・高瀬産子句碑・瀬高御門跡碑・風浪神社(新町藤吉交差点)・興勝寺(田中吉政公墓所)・外曲輪土居跡

◆ 城北地区町人まち・寺町巡りコース
辻町四角・柳川の碑・八剣神社・恵美須町裏路地・西方寺門前・旭町裏路地・浄華寺(三忠苑・安東省菴墓所)・宮地垣神社・常盤町裏路地(旧西寛寺小路〜旧辰屋小路)・沖端川の葦群生・出の橋・本船津町家(目野氏住宅)・大門橋・寺町界隈(妙経寺・台照院・報恩寺・良清寺・瑞松院他)

【レンタサイクル情報】
西鉄柳川駅と(一社)柳川市観光協会に「レンタサイクル」があります。気軽に楽しんでください。
お問い合わせ
●西鉄柳川駅 TEL:0944-72-2503(料金:1日500円)
●一般社団法人 柳川市観光協会 TEL:0944-73-2145(料金:1日500円)



◆ 漁師沖端をつつたのは平家の落ち武者だった
旧石場街と旧南の南界が矢留町。観光案内所の東から入った路地の奥にある矢留大神宮境内には、平家の六騎伝説の神社が祀られている。寿永四(1185)年、壇ノ浦の戦いで平家は敗れ、落ち武者六人が沖端へ逃れて住み着いたという。江戸時代に、六騎の子孫たちは宗家から漁業権を得、沖端の界分となった。



◆ 稲荷町の裏路地と二宮神社
恵比須大明神を祀る裏路地の奥に二宮神社が見えてくる。柳川の地を治めた蒲池氏一族の霊を慰める社で、境内には龍に乗った浦島太郎の石造物などがある。近くに、名物の串団子を売る商店がある。



◆ 裏路地の恵比寿大明神(矢留町)
かつて賑わいを見せた漁師町であった矢留町の裏路地には、恵比寿大明神を祀るいろんなりの祠があらここに人々の暮らした中に海の安全を願う信仰が今も大切に受け継がれている。



◆ 旧鬼童小路・旧戸島家住宅(鬼童町)
旧江戸小路や旧鬼童小路は外堀の西に張り出した武家の居住地。数寄屋風建築の旧戸島家住宅は藩士の隠居で後に藩の茶室となった。建物は県指定有形文化財。池泉庭園は国指定名勝で、一般公開されている。



◆ 西方寺参道(恵美須町)
木造三階建ての毘盧や、西方寺(浄土真宗本願寺派)参道の大きな木造建築物などが続き、まち歩きが愉しくなる町並み。



◆ 旧袋小路の武家屋敷渡辺家(袋町)
城内の大通り旧本小路から東に一本の道が入る。堀に囲まれた当時は文字どおり袋小路。今も残る武家屋敷や延々と続く生垣が武家地の端正な小路の空気を伝える。国学者西原貞樹が出した西原家もある。



◆ 旧奥州小路の町並み(奥州町)
藩祖立花宗茂が奥州糧倉(現福島県倉町)の大名家だった当時に召し抱えた家臣たちの住まわせたため奥州小路と呼ばれた。静かな佇まいの住宅が残り、かつての武家の町らしい趣のある町並みである。



◆ 旧宮永小路・米多比隅(宮永町)
柳川城をぐるりと囲む外堀の東南角、杉森高校の南側にある二つの小山は外堀跡に築かれた土居の跡で、米多比隅の屋敷がある隅という意味。堀の対岸からは静かな水辺の景色が開ける。

旧街道&旧小路を歩けば、柳川がもっと好きになる!

蒲池氏、田中氏、立花氏によって形成された柳川城下は、御家中・柳河町・沖端の三つの区域に分かれていました。柳川城(本丸・二の丸・三の丸)を中心に、外堀に囲まれたほぼ正方形の区域が御家中(城内)で、武家屋敷が並び、町は小路(こうじ)と呼ばれました。外堀の外に広がる区域が柳河町で、主に町人が住み、足輕や扶持人が居住した地域は小路といいました。外堀の外南西、沖端川からの引き込みを挟んで形成された町が沖端で、町人が住み、漁港も賑わいました。御家中と町人の町との出入りには城の北側の「辻御門」、西側の「竹御門」が設けられていました。堀割に守られてきた柳川は、旧街道筋や旧小路、旧町名が数多く残り、寺社も多く、趣のある裏路地や水辺の散歩が愉しめる国内でも稀な歴史と文化の香り高い町です。川下りをお楽しみの際は、ゆっくりとまち歩きにところを休めて、柳川の懐にふれてください。

- ○ ○ ○ ○ は、旧小路名・旧町名・旧街道名などです。
● ● ● ● ● は、日本の道百選や水辺の散歩道などを表しています。
■ ■ ■ ■ ■ は、写真の番号 ◆ ~ ◆ で、マップ中の位置を確認できます。
→ → → → → は、まち歩きモデルコースです。
道路の中の ● ● ● ● ● は、バス停です。
1 2 3 は観光施設案内看板 A B は歴史・由来学習案内看板です。
● ● ● ● ● は、施設誘導石柱やポールです。
■ ■ ■ ■ ■ は満潮時に海水が上ってくる水域です。

お問い合わせ
柳川市観光課
TEL 0944-73-8111 FAX 0944-74-1374
柳川市ホームページアドレス https://www.city.yanagawa.fukuoka.jp
(一社)柳川市観光協会(観光案内所)
TEL 0944-74-0891 FAX 0944-72-9013
柳川市観光協会ホームページアドレス http://www.yanagawa-net.com
2022年7月末日現在

旧街道

ドライブマップ

かつて柳川城下周辺を、七つの街道が通っていました。田中道(久留米柳川往還)、肥後街道、三池街道、柳川瀬高街道、薩摩街道(坊津街道)、福島道、瀬高道です。今も、当時の雰囲気を残す町並みや追分碑を旧街道筋で見ることが出来ます。旧街道筋には魅力的なスポットがいっぱいあります。いつもとはひと味違うドライブを楽しみましょう。

■写真の番号①～⑳で、マップ中の位置を確認できます。



有明海

※地図中の古絵図は全て柳川古文書館収蔵

柳川市を通る 旧街道のスポット

- 旧田中道(久留米柳川往還)**
 - ① 旧街道風景(矢加部) 田中吉政公が整備した柳川城下・久留米城下を結ぶ街道(往還)は田中道と呼ばれた。
 - ② 藩境木跡案内板(矢加部) 柳川藩と久留米藩の境界にあったという境木跡案内板。県道23号沿いにある。
- 旧三池街道**
 - ③ 江戸藩城本丸跡(208号沿い) 江戸藩は代々永江氏の居城だったが、後に柳川城の支城となった。
 - ④ 旧街道風景(みやま市東町) 二川役場跡、料亭、商店などがあり、旧街道の雰囲気が残っている。
 - ⑤ 濃池三軒屋追分碑 三軒屋は柳川、瀬高、三池に至る街道の分岐点だった。背景は桶田川と柳川橋。
 - ⑥ 昔ながらの三軒屋船屋 追分碑の近くに、幕末期創業の船屋が現在も製造販売を行っている。
- 旧柳川瀬高街道**
 - ⑦ 一里石(一里石バス停) 柳川城下の札の辻(辻町)を起点として旧柳川瀬高街道沿いに置かれた一里石。
 - ⑧ 思案橋(瀬高町下庄) 近くに遊郭があり、男たちが「行こか、戻るか。」と思案したという橋。
- 旧薩摩街道**
 - ⑨ 瀬高の三叉路(瀬高町上庄) 旧薩摩街道と旧柳川瀬高街道が交わる三叉路。左奥が御茶屋跡といわれ、参勤交代の折の薩摩藩をはじめ大名の休泊所となった。
 - ⑩ 伊能忠敬測量基点之碑(瀬高町下庄) 443号の南側、旧薩摩街道の元町公民館前に、文化9年(1812)伊能忠敬一行がこの地方を測量した際に基点とした碑が立っている。
- 旧肥後街道**
 - ⑪ 旧すめん坂(現豊原酒造橋) 旧薩摩酒屋の脇を瀬高の渡し場下る石畳の道。路地の奥の矢部川の堤防の上ると、写真の風景が広がる。
 - ⑫ 旧隅合酒造(現豊原酒造) 前旧薩摩街道沿いの豊原酒造(写真右、なまこ塀の建物)の手前に旧すめん坂が残っている。
- 旧肥後街道**
 - ⑬ 二里石(瀬高町大竹) 柳川城下(札の辻)から二里の地点に置かれた二里石跡。JR鹿児島本線沿いにある。
 - ⑭ 本船津町町家(目野氏住宅) 諸国の物産、藩内の特産品が集まる貿易港として賑わった本船津町。

柳川城と領内の支城・在町を結ぶ街道

柳川は、掘割に浮かぶ町。歴代の領主は、この美しい水の都を特色ある城下町に整備しました。柳川城は、永禄年間(1558~70)に蒲池鑑盛が築城。城主は、蒲池氏から龍造寺氏に移り、豊田秀吉の九州平定後、立花氏に変わりました。現在、柳川城本丸跡は、公園になっています。かつて二の丸と三の丸を結んだ欄干橋の擬宝珠のうち四個が、松月文人館跡の欄干橋に使用されています。それには慶長四年(1599)の銘が刻まれ、立花宗茂時代の製作と分かります。関ヶ原の戦い後、筑後に入封した田中吉政は、立花氏の柳川城を拡張して五層の天守閣を築き、これを居城(本城)としました。そして、次男吉信を久留米城に、三男康政を福島城に入れ、さらに赤司・猫尾・城島・榎津・松延・鷹尾・中島・江浦の各支城に一門・重臣を配置しました。近世の交通は、江戸と天領、城と城を結ぶ街道として発達しました。柳川城と久留米城を結ぶ久留米柳川往還(田中道)、福島城とを結ぶ福島道、三池陣屋とを結ぶ三池街道などです。元和六年(1620)、柳川城に再封された立花宗茂は、領国経営を推進。元禄文化が上方を中心に繁栄すると、地方の農村にも貨幣経済が浸透し、柳川藩でも領内に十三の「在町」(農村に町立した集落)が形成されました。宿場町としての在町には、瀬高上庄町・下庄町・原町・山下町・小保町・渡瀬町・三池町など。宿場町以外の在町には、本郷町・野町・本吉町・兼松町・中島町・江浦町などがありました。街道は、人と物を運び、文化を移動し、定着させました。

田中吉政公の干拓事業、慶長本土居(堤防)

関ヶ原の戦いで石田三成を捕えた功により筑後一國の藩主として柳川城に入った田中吉政は、数々の土木工事を行い社会基盤を整えました。街道の整備(田中道)、治水・利水工事、柳川城の修築など多くの業績を残しています。その一つが、慶長本土居と称される干拓堤防。大川新田から柳川~大和~三池郡渡瀬までの有明海沿岸32キロメートルに及び、広大な土地を干潟や湿地から農地に変えました。本土居跡の多くは現在、道路として利用されています。